

【資料の一部訂正のお知らせ】

2010年7月27日に掲載いたしました当資料の4ページ「2011年3月期第1四半期連結バランスシートの変動要因」について誤りがあり、下記の通り修正いたしました。

(誤)

	10/6	増減
設備投資額	41	11
(うちリース資産除く)	38	1

(正)

	10/6	増減
設備投資額	35	-17
(うちリース資産除く)	32	-5

当該ページ(4ページ)を修正後のものに差し替えておりますので、以後はこちらをご参照いただきますようお願いいたします。お手数をおかけいたしまして申し訳ございません。お詫び申し上げます。

2010年8月6日

株式会社ニチレイ 広報IR部

2010年7月27日 電話会議

2011年3月期第1四半期業績概況資料

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

広報IR部 田中 久

TEL: 03-3248-2235

E-mail: tanakah@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

2011年3月期第1四半期連結業績と第2四半期・通期業績見込

単位:億円 (未満切捨て)	第1四半期		第2四半期(累計)			通期		
	実績	前年同期間 比増減	(E)	前年同期間 比増減	前回(E) 比増減	(E)	前年同期間 比増減	前回(E) 比増減
売上高	1,085	-18	2,194	-29	-67	4,394	+12	-103
営業利益	44	+8	84	+8	+11	168	-0	+3
経常利益	43	+9	75	+6	+10	150	-4	+3
当期純利益	21	-0	44	-2	+8	83	-7	+4
EPS(円)	7.1	-0.0	14.2	-0.9	+2.6	26.8	-2.5	+1.3

注:(E)は今回発表した見込、前回(E)は5月11日に発表した見込。

1.売上高

- ① 全体では2%の減収。セグメント別では水産・畜産・低温物流・不動産がいずれも増収となったが、加工食品は昨夏のチキン加工品の一部OEM調達の打切りやアセロラ飲料事業売却による影響により7%の減収。
- ② 通期予想については加工食品・畜産・低温物流で下方修正。第2四半期累計で67億円、通期では103億円減額。

2.営業利益

- ① 加工食品が調達原価の低下や工場の生産性改善が進み8億円の大幅増益。えびやたこの収益改善が寄与した水産も3億円の増益。低温物流も前年を1億円下回るものの計画線上で推移しており、全体では8億円の増益。
- ② 通期予想については1Qまでの進捗を反映し、加工食品で5億円、水産で2億円上方修正する一方で、畜産では2億円の下方修正、全体では3億円上方修正する。

3.経常利益・当期純利益

- ① 資産除去債務に関する会計基準変更で7億円を特別損失に計上。

2011年3月期第1四半期セグメント別売上高・営業利益と第2四半期累計・通期見込

単位：億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	第1四半期			第2四半期(累計)					通期					
	実績	前年同期間比		(E)	前年同期間比		前回(E)比		(E)	前年同期間比		前回(E)比		
		増減	率		増減	率	(E)	増減		増減	率	(E)	増減	
売上高	加工食品	398	-31	-7%	798	-55	-6%	822	-24	1,606	-15	-1%	1,636	-30
	家庭用調理品	120	-1	-1%	235	3	1%	247	-12	481	17	4%	496	-15
	業務用調理品	184	-21	-10%	378	-30	-7%	390	-12	770	-4	-0%	785	-15
	健康価値	13	-11	-46%	23	-26	-53%	23	0	46	-33	-42%	46	0
	その他	81	2	3%	162	-3	-2%	162	0	309	5	2%	309	0
	水産	168	5	3%	346	9	3%	346	0	695	23	3%	695	0
	畜産	195	0	0%	390	6	2%	425	-35	770	-6	-1%	823	-53
	低温物流	347	4	1%	708	13	2%	721	-13	1,418	28	2%	1,442	-24
	物流ネットワーク	187	5	2%	384	13	4%	387	-3	772	19	3%	775	-3
	地域保管	109	-6	-6%	226	-6	-2%	229	-3	451	-1	-0%	453	-2
	海外	39	-1	-2%	83	-1	-1%	91	-8	168	3	2%	187	-19
	その他・共通	11	6	116%	15	6	75%	14	1	27	7	34%	27	0
	不動産	18	0	2%	36	1	2%	36	0	71	1	2%	71	0
	その他	16	-0	-2%	30	-4	-12%	30	0	64	-5	-7%	64	0
	全社または消去	-57	3	—	-114	1	—	-119	5	-230	-13	—	-234	4
合計	1,086	-19	-2%	2,194	-29	-1%	2,261	-67	4,394	13	0%	4,497	-103	
営業利益	加工食品	12	8	202%	22	17	322%	12	10	45	19	76%	40	5
	水産	4	3	394%	5	2	43%	3	2	9	0	1%	7	2
	畜産	1	-1	-47%	3	0	5%	5	-2	6	-1	-11%	8	-2
	低温物流	19	-1	-3%	37	-4	-9%	36	1	73	-6	-7%	73	0
	物流ネットワーク	7	3	54%	14	4	43%	11	3	26	6	29%	23	3
	地域保管	12	-2	-16%	23	-5	-18%	22	1	44	-9	-17%	43	1
	海外	2	-1	-31%	3	-2	-42%	5	-2	7	-0	-3%	10	-3
	その他・共通	-2	0	—	-3	-1	—	-2	-1	-4	-3	—	-3	-1
	不動産	10	0	5%	19	0	2%	19	0	38	1	2%	38	0
	その他	1	1	144%	1	-1	-33%	0	1	2	-2	-53%	2	0
	全社または消去	-3	-3	—	-3	-6	—	-2	-1	-5	-12	—	-3	-2
	合計	44	8	22%	84	9	12%	73	11	168	0	0%	165	3

1.加工食品

- ①売上高は前年比31億円減収、チキン加工品の一部OEM調達打切りの影響と事業売却したアセロラ分の減収が主因。チキンを除く業務用調理品は1Qでは前年割れが継続したが、昨秋と今春に投入した“値ごろ感を重視した商品”が徐々に浸透し回復を始めている。また、家庭用は前年並み売上げで、内食拡大による需要押し上げ効果には一巡感がある。
- ②営業利益は前年比8億円の増益。不採算であったOEM調達の打切りや原材料価格低下が継続したこと、工場生産性の改善等により採算が改善した。また前年は貸倒損失が発生していたことや営業費用などの固定費の減少等も加わり大幅な増益となった。
- ③通期予想は、売上高を30億円下方修正する一方、営業利益は5億円上方修正する。この修正に合わせ、2Q累計の予想も売上高を24億円下方修正、営業利益を10億円上方修正する。売上高は1Qの状況を反映し家庭用とチキンを除く業務用の売上げを減額する。タイで実施中のチキン加工品の工場新・増設は若干の遅れで進捗、売上予想に影響はない。営業利益は2Qも採算改善が継続する見通し。

2.水産

- ①売上高は前年比3%の増収。採算面では販売価格が上昇したたこや採算性が改善した中国加工のかれいなどにより利益率が向上したほか、得意分野のえびも販路が拡大して3億円の増益となった。
- ②通期予想は売上高は据え置くが、営業利益は1Qの状況を反映し2億円の上方修正とする。

3.畜産

- ①売上高は前年並みを維持。採算面では、量販店等の低価格訴求が続く中、口蹄疫の影響を受けた国産豚肉や、輸入価格が上昇した牛肉・鶏肉の収益性が悪化、黒字は確保したものの1億円の減益となった。
- ②販売価格の上昇が見込めないため、通期予想は売上高は53億円、営業利益は2億円下方修正する。

4.低温物流

- ①全体では売上げが1%の増収、営業利益が1億円減益。好調な物流ネットワークが地域保管と海外をカバーする形で進捗、予想に対し計画線での推移。
- ②物流ネットワーク:売上げは前年比2%増収、幹線輸送と新設TC(通過型センター)が寄与。営業利益は重点課題として取組んでいる配車効率向上も貢献して3億円の増益となり計画線を上回る。
- ③地域保管:売上げは6%減収、営業利益2億円の減益。在庫量は回復基調にあるものの昨年後半からの在庫率の低下がその要因。今年2月・3月に稼働した設備の減価償却費負担も減益要因に。
- ④海外:売上げは2%の減収、営業利益は1億円の減益。欧州事業では物量減少も底をうち、現地通貨ベースでの減益幅は縮小しつつある。7月に買収したフランス物流子会社は3Qより連結業績に反映。
- ⑤通期予想は、売上高を24億円下方修正、うちユーロ安による為替換算影響は13億円。営業利益は為替換算影響額を反映する一方、物流ネットワークを上方修正し全体では変更しない。

5.その他

- ①営業利益が1億円増益、バイオサイエンスで培地製品販売が好調に推移。

2011年3月期第1四半期連結バランスシートの変動要因

単位: 億円(未満切り捨て)

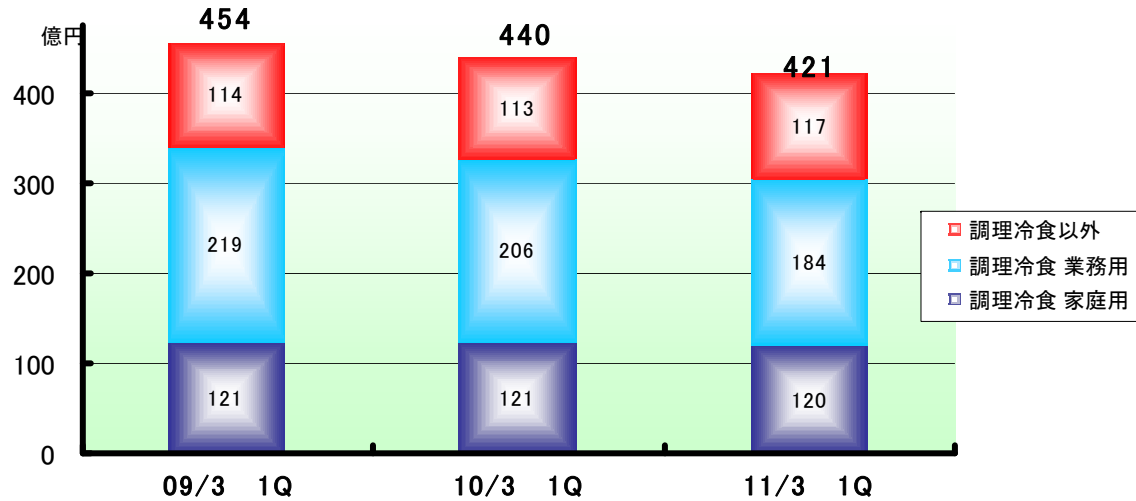
科目	10/6	10/3	増減	
〔資産の部〕				
流動資産	1,000	948	52	①
固定資産	1,832	1,826	6	②
資産の部合計	2,833	2,774	58	
〔負債・資本の部〕				
流動負債	947	895	51	③
固定負債	664	652	11	④
負債の部合計	1,611	1,548	63	
純資産の部	1,222	1,226	-4	
(うち株主資本)	1,165	1,159	6	
有利子負債	882	857	24	③
(うちリース債務除く)	640	609	31	
科目	10/6	09/6	増減	
設備投資額	35	52	-17	⑤
(うちリース資産除く)	32	36	-5	
減価償却費	33	32	1	
(うちリース資産除く)	24	23	1	

【主な要因】

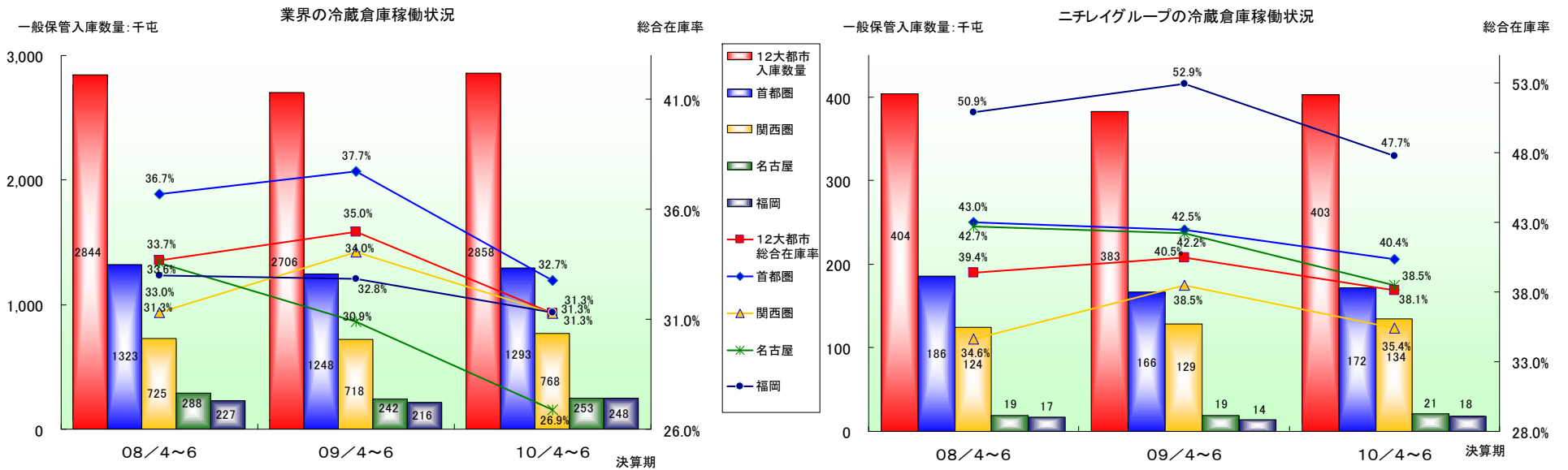
- ① 流動資産は季節的要因により売掛金およびたな卸資産が増加。
- ② 固定資産は資産除去債務の計上により有形固定資産が10億円が増加した一方で、株価の下落により投資有価証券が12億円減少。
- ③ 流動負債は買掛金が24億円増加し、運転資金の増加により短期の有利子負債が29億円増加。
- ④ 資産除去債務が18億円増加。
- ⑤ 第1四半期の設備投資の主なもの
 低温物流 東扇島DC、福岡東浜DC
 加工食品 GFPTニチレイ、スラポン
 ニチレイ食品(チキン加工品
 生産設備)

参考データ

冷凍食品売上高の推移 (日本冷凍食品協会定義にもとづき、加工食品のほか水産畜産の売上も含む)



冷蔵倉庫の稼働状況 (業界は日本冷蔵倉庫協会資料を当社で加工)



* 札幌石狩地区、名古屋尾北地区を含む

当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果

など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。